

2019年1月24日

各位

住友重機械精機販売株式会社

当社における不適切な検査等について

当社（社長：岡田典夫、資本金：400百万円）において、サービス部門が実施している減速機のオーバーホールにおける一部の検査項目に関し、不適切な検査が行われていたことが判明しましたので、その対応状況について下記のとおりお知らせいたします。

本事案につきましては、関係各位に多大なるご迷惑をおかけし、深くお詫び申し上げます。当社では今後このような事態が再び発生することがないように業務品質の強化を図り、再発防止に努めてまいります。

記

1. 経緯

住友重機械グループを挙げて品質管理総点検を行う中で、当社としまして1年間を対象に調査を実施した結果、減速機のオーバーホール時に実測値を記載した「チェックリスト」とお客様へ提出した「検査成績書」の数値が一部異なることが判明し、不適切な検査が行われた事案が判明しました。なお、オーバーホールとは、設備等の機能を維持したり、寿命を延ばす目的で実施されるものであり、当社が実施する作業内容は、減速機の分解点検や部品交換等です。

2. 事案の内容

(1) 不適切な検査等の概要

減速機のオーバーホール時に実施される所定の検査において、社内基準値から外れた実測値を社内基準値内の数値に書き換えて検査成績書に記載した他、社内基準値内の実測値を社内基準値内の別の数値に書き換えて検査成績書に記載し、お客様に提出した事案がありました。

この不適切な検査の対象となるお客様数は15社、不適切な検査の件数は29件でした。

(2) 発生原因

- ① お客様が設備の試運転により性能確認を行うので、社内基準値を外れても問題ないと勝手な判断をし、検査成績書の数値を書き換えていました。
- ② 品質確保のための基準や工程の管理不徹底が、一部部門の審査・承認チェック体制の不備を生み、機能していませんでした。また、定期的なサービス拠点の監査は、業務品質の実態にまで踏み込んでいませんでした。

(3) 製品性能の確認状況

現時点では本事案に起因する製品の不具合等は発生しておりません。

スキリフト等設備に用いられるものについては、当社において製品性能の確認を実施し、問題がないことを確認済みであり、ベルトコンベア等設備に用いられるものについても、速やかに確認を進めてまいります。なお、減速機は、オーバーホール後にエンドユーザー様の設備に再度組み込まれて運転試験が行われ、性能確認を行った後に稼動されており、また、エンドユーザー様にて日常点検、定期検査等を通して、問題が生じていないことも確認されています。

(4) 対象製品の年間オーバーホール数量および年間売上高

年間オーバーホール数量：761台      年間売上高：約9億円（2017年度）

3. 現在の対応状況

当社において、対象の減速機全品で製品の性能に問題がないことを改めて確認いたしました。また、スキーリフト等設備メーカー2社に対して不適切な検査の事実をご説明し、安全性評価を実施していただき問題がないことをご確認いただきました。なお、産業用ベルトコンベア等メーカー、エンドユーザー様13社につきましても、順次ご説明を行っております。

4. 今後の対応方針

- (1) 今回判明した不適切な検査の事実について、速やかにかつ丁寧にお客様に説明し、お客様がご納得いただける方法で問題の解決を図ります。
- (2) 更なる事実関係を調査の上で、原因究明を行い、再発防止策の策定・実施を行います。
- (3) オーバーホールにおける業務品質の向上に取り組み、お客様の信頼回復に全社を挙げて取り組みます。

本件に関するお問い合わせ先

住友重機械精機販売株式会社 企画管理部      TEL 0120-856852 / 0562-45-6403